

編集後記

第16号から印刷物としてではなく、電子媒体として発行することになった。この第18号で3冊目となる。これまでと同様に名古屋大学附属図書館のレポジトリに登録されるとともに、技術教育学研究室（横山研究室）のHPに掲載される。研究室のHPには、室報全体をPDF化したものを掲載している。

http://gi.jyutukyoiugaku.blogspot.com/p/blog-page_58.html

2018年7月より科研費挑戦的研究（萌芽）「学校図面分析による戦前戦後の技能労働者教育に関する歴史的研究」が採択された。この研究の進行状況についても、HPが作成され、研究室のHPにリンクが貼られている。そのHPに研究成果が随時更新され、掲載されていく予定であるので、参照していただければ幸いである。

http://www.tcp-ip.or.jp/~ishida96/yokoyama_kaken/2018_yokoyama_kaken-1.html

冒頭の **Kajsa Borg** の論文は、スウェーデンにおけるスロイド教育のこの100年間の歴史的展開を学習指導要領（**Laroplan**）のレベルで分析したものである。著者は長く **Linköping** 大学スロイド教員養成所で教鞭と取られた方で、その間にストックホルム教育大学（のちにストックホルム大学に統合される）の **Sven G. Hartman** 教授の指導のもとで教育学博士の学位を得て、**Umeå** 大学に移られ、スロイド教育学の研究者の養成に取り組みました。若い頃に東京学芸大学技術教育学科に留学していたこともあり、私が1997年8月から1998年3月まで **Linköping** 大学スロイド教員養成所に客員研究員として滞在する申し入れを快く受け入れてくださった。また、そこで開催されたスロイド教育に関する国際会議（1997年8月末）に参加する機会を得て、北欧5ヶ国やドイツ(**Johan Reinke**)やキューバ(**Lazaro Moreno Herrera**)からの研究者と交流できたことがその後の研究ネットワーク形成に大きく影響した。その後、北欧5ヶ国のスロイド教員養成機関を訪問し、各国の実情を調査することができた。

モスクワ国立教育大学のホツンチェフ教授は、今年81歳を迎えられた。もともとラジオ技術の研究者であり、現在でもモスクワ教育大学の物理、技術、情報システム科で **Technology Education** についての講義を行っている。ロシアの **Technology Education** に関する国際会議を毎年モスクワで組織している中心的人物である。

本研究室の前身である技術教育学講座を担当された故佐々木享教授が亡くなってから3年半が過ぎた。2019年11月23日の午後1時から5時にかけて「佐々木享没後5周年記念シンポジウム」を名古屋大学教育学部大講義室において別紙のような内容で開催することを計画している。多くの方が参加されることを期待したい。

（横山悦生）